

(土石流被害の防止による評価)

(区分) 国補

事業名	復旧治山(通常)	事業箇所	甲府市	古関町	辰新井	地区名	白沢川(しらさわがわ)	事業主体	山梨県
(1)事業概要								(3)事業の妥当性評価	
①課題・背景								妥当 妥当でない	
本計画箇所は、甲府市古関町に流入する一級河川芦川上流に位置している。近年の集中豪雨により上流の崩壊が顕著となり、下流への土砂流出の恐れが高まったため、土砂流出防止対策を早急に実施し、保全対象の保護を図る必要がある。								①公共関与の妥当性(行政が行うべき事業か) ・森林法第41条第1項に規定された「保安施設事業」に該当 <input type="radio"/> <input type="radio"/>	
②整備目標・効果								②事業執行主体の妥当性(県が行うべきか) ・森林法第41条第3項の規定により都道府県知事が整備 <input type="radio"/> <input type="radio"/>	
□主要目標								③経済妥当性 費用便益費 便益(B)/費用(C)= 8.57 > 1.0 ・便益(B)= 883 百万円 ・費用(C)= 103 百万円	
○土石流被害の防止 保全対象 人家35戸 国道1700m、県道200m、公共施設1棟、公民館2棟 緊急度・危険度 11≥10点 ※ 被害軽減額 353≥340百万円 ※ (※ 評価基準値)								④事業実施・規模の妥当性 <input type="radio"/> <input type="radio"/> ・流域内は治山堰堤が設置されていない。なお、砂防事業計画はない	
□副次目標								⑤整備手法の有効性 <input type="radio"/> <input type="radio"/> ・保安林機能の回復を図る目的から治山事業による整備が有効	
□副次効果								⑥環境負荷への配慮 <input type="radio"/> <input type="radio"/> ・切土法面は緑化し、裸地を残さない ・使用機械は排ガス対策型とし、環境負荷を軽減する	
○被災時の被害波及の防止 「国道358号線(第1次緊急輸送道路)の保護」								⑦事業計画の熟度 <input type="radio"/> <input type="radio"/> ・地元甲府市より強い要望あり	
(2)整備内容と整備量								<妥当性評価>	
①整備内容 谷止工1基、床固工1基、山腹工0.35ha								・7項目すべて妥当であることから、妥当と判断	
②整備期間 平成27年度～平成28年度								(4)事業間優先度評価	
③総事業費 110百万円(国費 52百万円(1/2) 県費 58百万円(1/2))								・貢献度ランク: a 副次効果ランク: 1 優先度評価: S I	
④全体計画								(5)総合評価	
平成27年度 谷止工1基 35百万円 平成28年度 床固工1基 25百万円、山腹工0.35ha 50百万円								<input type="radio"/> <input type="radio"/> ・(3)及び(4)の結果から「最優先」に実施	
⑤既整備内容・期間・事業費								【事業位置図等】	
								省 略	